

懐かしいあの人の顔に出会う

五百羅漢とは、お釈迦様の入滅後の第1回、第4回の仏典編集会議に集まった人々がそれぞれ500人であったことから、この500人の聖者を指すといわれています。さまざまな顔かたちをした500人の中には、親しい人、懐かしい人に似た顔が必ずあるともいわれています。

総本山善通寺の金堂の中には、ご本尊のやくしによらい薬師如来を囲むように五百羅漢がまつられていました。江戸時代後半につくられたもので、現存するのはそのうちの108体です。現在は御影堂の北にある護摩堂横の回廊に移されました。

東院の堀沿いにも石像の五百羅漢がまつられています。平成18(2006)年に創建1200年の記念事業の一環として建立されました。多くの人々の寄進により完成した五百羅漢は、それぞれ個性があり、何度見ても新たな発見があります。



周囲を囲む五百羅漢像



護摩堂の百八羅漢



■ 善通寺町三丁目3-1

● JR善通寺駅から徒歩約17分